



# 梅島小だより

## 失敗を前進のチャンスに

校長 江原 敦史

私たちは、日常的にほんの小さなことでも「ごめんなさい」「すみません」と謝る必要がある場面は多くあります。

例えば、駅などで軽くぶつかってしまった時など、「失礼しました」「すみません」とさつと謝ることは、マナーとしてとても大切です。

この時、「大丈夫ですよ」「いいですよ」という返事については、どうでしょうか。

個人的な感想ですが、このような返事を聞く場面は少ないように感じます。

「ごめんなさい」「大丈夫ですよ」、すなわち、「謝る」「許す」というコミュニケーションは、とても大切なことではないかと思えます。

人は誰でも失敗します。

人格形成に向けて日々学んでいる子どもたちは、なおさらです。

その時にまず大切なのは、「ごめんなさい」と謝ることです。

潔くすぐに謝ることで、失敗した人は「次」に失敗しないように考えることができます。

過去を振り返って反省して立ち止まることも、大切かもしれません。

しかし、そこにとどまっているかぎり、前進はありません。

失敗を事実として受け止めて甘受し、「次」に失敗しないようするにはどうしたらよいかを前向きに考え行動することは、さらに大切だと思えます。

では、周囲の人はどうすればよいのでしょうか。

それは、失敗した人が前に向かって歩き出せるようにアシストすることです。

その第一歩が「許す」ことだと思えます。

失敗した相手に反省を求めることより、一刻も早く「許す」方策を探る。

そうすることで、事態が進展するのだと思えます。

子どもたちは、日々失敗し、謝罪し、許すことを繰り返しながら成長していきます。

成長途上の子どもたちは、その意味で、みなお互い様、みな平等です。

この1年間、私自身、多くの失敗をしてきました。

その際に、保護者・地域の皆様に、多くの励ましのお言葉をいただき、支えていただきました。

「次はがんばろう」という気持ちになりました。

心から感謝申し上げます。

この経験を生かし、今後も、子どもも教師も、ともに前進できる学校であるよう、尽力してまいりたいと思えます。

1年間、ありがとうございました。